

第3回湖南省文化財保存活用地域計画策定協議会 議事録要旨

1. 日時 令和7年7月4日 10:00～11:50
2. 会場 湖南省共同福祉施設 2階大ホール
3. 出席者
[委員] 佐藤会長、青柳副会長、田中健一委員、八杉委員、藤支委員、園部委員、
佐々木委員、田中秀明委員、大濱委員、谷口委員
[オブザーバー] 滋賀県文化財保護課 北村参事
[事務局] 青木部長、野崎次長、堤課長補佐、滝主査、守武主任技師
[業務受注者] 株式会社イビソク関西支店
4. 欠席者
[委員] 中島委員
5. 傍聴者
なし
6. 次第
 - 1 第2回湖南省文化財保存活用地域計画策定協議会の結果
 - 2 アンケートについて
 - 3 ワークショップについて
 - 4 文化財保存活用地域計画素案 序章～第3章
(湖南省の概要、湖南省の歴史文化の特性 他)

7. 議事要旨

◆1 第2回湖南省文化財保存活用地域計画策定協議会の結果

委員一同：特に意見なし。

◆2 アンケートについて

田中健一委員：資料2-4「ご記入にあたっての注意事項」に「回収したデータは回答者が特定されないように統計的に処理し、ご回答いただいた方に迷惑をおかけすることはございません。」とある。アンケートには、所有者名と文化財名称を回答し、困っていることを回答する設問がある。所有者が困っていることを回答したにも関わらず、匿名で統計的に処理され、市から何も対応がないという状況は残念である。「外部に回答者が特定されないように」といった文言に変更された方が良い。

佐藤会長：アンケートに回答いただくと、そのことに対する対応を求められると思うが、事務局はどのように考えているか。

事務局：「外部に漏れないように」という文言に修正したい。その上で、事務局内部では回答者等を把握できるようにし、補助金申請等につなげていきたいと思う。

藤支委員：アンケートの依頼文に趣旨が書いてあるが、小中学生用には例えば「湖南省の小中学生が湖南省の歴史・文化・自然についてどのように感じているか、思っているかを知るために」に下線を引く等、特に伝えたいところを目立つようにすると分かりやすいと思う。他の方を対象としたアンケートも同様に特に伝えたいところには下線等引くと見やすいと思う。

事務局：文章が長いので伝えたいことが分かりにくくなっている可能性がある。一番伝えたい目的等に下線やハイライトを入れることで分かりやすくしたい。

八杉委員：資料2-2、2-4、2-5の依頼文に記載しているアンケートの趣旨を説明した文の中で「歴史文化」という言葉が唐突に使用されているが、この言葉の意味を回答者は理解できるのか。

事務局：どのような意味かイメージはできるかもしれないが、アンケートのタイトルと合わせて「歴史文化」を「歴史・文化・自然」に修正し、よりイメージしやすくする。

佐藤会長：地域計画本編では「歴史文化」を使用しているため、それに合わせる形でアンケートの依頼文を作成していると考えられる。しかし、アンケートには一般の方にわかりやすい言葉を使用すると良い。アンケート結果を集計する際に地域計画本編に合わせて「歴史文化」という言葉を使用するとよい。

資料2-1のアンケートの目的の欄で地域の代表者向けのものの目的がBに特化しているのはなぜか。

事務局：地域で管理している文化財の困りごとを確認したいため、Bに特化している。地域の代表者にも一般用のアンケートは回答いただき、湖南省の歴史文化に対する意識調査を行う予定である。

佐藤会長：今回のアンケートに関係すると思ひ、湖南省総合計画策定時のアンケートを確認した。「これからのまちづくりに必要なものは何か」という設問に対し、「歴史」の票数が少なかった。しかし、「特色あるふるさとを作る」の票数は多く、そのことに対する関心は高いと思われる。おそらく特色のあるふるさとを作りたいと思っているが、歴史は重要ではないと考えていると思われる。また、「誇りとなる市民文化を創造するまちづくり」での設問では、「歴史文化の保全や継承、活用」が「スポーツ」よりも大幅に票数が多かった。歴史や文化、文化財に対する考え方のうち、文化の継承として祭りに参加する等への関心も高いと思われる。市民は「湖南省にある歴史や文化は、守るべきもの」という意識は高いが、市外へアピールできるような誇りになるものという意識は低い印象がある。

今回のアンケートに「湖南省をPRする際に紹介したい湖南省の「歴史・文化・自然」はありますか」という設問がある。この設問の目的はBだけではなくAにも関わるだろう。そのため、Aの視点でも分析すれば、今後の方針を見い出せる結果が得られると期待している。

青柳副会長：一般用アンケートに「歴史・文化・自然に興味・関心がありますか」という設

間があるが、誘導的に感じるため、市外にアピールできるものは何かを先に質問し、その後歴史・文化・自然に興味・関心があるかを質問した方がよい。唐突に歴史・文化・自然という言葉が出てくる印象があるため、最初に「湖南市らしさとは何か」等、大枠の質問を行った後、その中で歴史・文化・自然について質問するという流れにした方がよい。

佐藤会長：自由回答となる設問の位置は留意すべきである。アンケートは、一度事務局で検討いただき、メール等にて委員にて確認させてほしい。

事務局：事務局で検討・修正し、メール等で共有する。

佐藤会長：既に作り込まれているため、訂正が難しい状況であれば、現状のままでよい。今回いただいたご意見を反映できるのであればお願いしたい。

◆3 ワークショップについて

園部委員：ワークショップに委員も参加した方がよいのか。

事務局：ご参加いただけると、市民から直接ご意見を聞くことができると思う。強制ではないため、ご都合がつけばご参加いただけるとよい。ワークショップの結果は、次回の協議会で共有する。

田中秀明議員：ワークショップは4地域を予定しているが、菩提寺地域のみ時間が短く、歴史講座後に参加者にご意見を聞くことになっている。他の地域は、時間が長く、まち歩きもある。地域によって手法が変わっても問題はないのか。

また、まち歩きの際にどのような方が案内・説明を行うのか。

事務局：今回菩提寺まちづくりセンターで行われる歴史講座の内容が、菩提寺地域の伝統的な祭り等に関することである。そのため、民俗文化財に特化するかもしれないが、そこから地域らしさを感じたり、新しい文化財が発見できたりする可能性がある。結果的にワークショップで収集したいご意見はいただけると考えている。今回のワークショップは4つの中学校区で行うが、まちづくり協議会は7つあるため、地域計画策定後もまちづくり協議会ごとにワークショップを実施したいと考えている。

石部（石部中学校区）と三雲（甲西中学校区）では東海道を歩くことを考えているが、この案内は八杉委員に依頼している。東海道以外では、寺院や神社に立ち寄り、そこのご住職や総代等にお話を聞く予定である。

大濱委員：小学校何年生以上を対象としたワークショップなのか。また、保護者の同伴が必要なのは何年生以下か。ワークショップの開催案内時には検討いただきたい。

事務局：歴史講座やまち歩き後の意見交換は、小中学生には難しいかもしれない。小学生等の若い方にはまず参加いただくことが重要であるため、まち歩きだけでもご参加いただき、意見交換は可能であれば参加いただければよい。

佐藤会長：保護者の同伴についてはまたご検討いただきたい。

◆ 4 文化財保存活用地域計画素案 序章～第 3 章

◇序章

佐藤会長：p. 1 の 25・26 行目の内容は、第 5 章と結びつくものだと考える。そのため、第 5 章の作成後、この部分が修正される可能性があるとお含みおきいただきたい。また、p. 4 の図 2 では上位計画に『湖南省第三期きらめき・ときめき・元気創生総合戦略』があるが、p. 2 の図 1 には上位計画として総合計画しか掲載されていない。図 1 には総合戦略を掲載しないのか。

事務局：図 2 と整合が図れるように図 1 を修正する。

青柳副会長：アンケートにもあった「湖南省らしさ」について、地域計画でどのようなものか謳うのか、それとも計画期間の 10 年の中で発見していくのか、どちらを考えているのか。湖南省らしさは時代とともに変化していくと思われるため、この計画期間 10 年で都度、発見していくものと思うがいかがか。

事務局：地域計画は策定時点で 100% 完成するものではなく、随時追加・追記していくことになると思う。また、策定 5 年後に中間見直しを行う予定である。例えば未指定文化財リストの場合、文化庁への認定申請時点のものとなるため、「令和 8 年 8 月現在」等の表記を行うことになる。

青柳副会長：未指定文化財の定義をどこかで明確にした方がよい。また、上位計画と地域計画との関係はどのようなようになるのか。

事務局：『第三次湖南省総合計画』は現在作成中であるため、歴史・文化について記載する項目で整合性をもたせたい。

佐藤会長：p. 3 で文化財の定義付けを行っているため、文化財保護法上の取扱いに関する内容は整理されていると思う。また、上位計画に記載された内容の中で、p. 5 以降に地域計画に関連するものを整理している。整理した内容と、今回策定する地域計画が整合すればよい。さらに未指定文化財について、「現段階のものである」と表記することは、『文化財保存活用地域計画ハンドブック』にも記載されているため、問題ないだろう。

◇第 1 章

佐藤会長：『文化財保存活用地域計画ハンドブック』では、地名を自然的・社会的環境で記すことが定められているが、今回提示された素案では「2. 社会的状況」に記載されている。そのため、必ずしも『文化財保存活用地域計画ハンドブック』に定められていることに従って作成する必要はないと考える。

p. 17 の図 5 に断層が図示されていない。他の項目で自然災害について触れているため、断層を図示した方がよいのではないか。後半の章で防災について記載をすることになるため、断層を図示した方がよいと思う。

佐々木委員：地質図について、従来は 5 万分の 1 のものを使用することが多い。図 5 で使用

している図は全く違う分類で作成をしているため分かりにくいと思う。一般向けに5万分の1の地質図を使用した方が良い。またその地質図には断層も掲載されている。

事務局：ご指摘のとおり5万分の1の地質図を使用する。

田中健一委員：p. 19の25行目に「耐震対策を検討していく必要があります。」とあるが、これは後の章に記載すべき課題ではないか。概要や課題、措置の記載があちこちにあり分かりにくくなっている計画を見たことがあるため、記載する章を整理すべきである。自然災害の概要としては「断層が確認されている」までである。

◇第2章

佐藤会長：今回提示された素案では、指定等文化財、埋蔵文化財、未指定文化財で整理しているが、『文化財保存活用地域計画ハンドブック』では、指定等文化財、未指定文化財、文化財の概要で整理しているため、埋蔵文化財は指定等文化財か未指定文化財のどちらかで記載してはどうか。文化財の定義でも指定、未指定という分け方をしているため、第2章でも指定、未指定に項目を分けて整理をした方が良い。

滋賀県：埋蔵文化財は埋まっている状態の文化財で、保存等の取扱いが指定等文化財と異なるため未指定文化財で整理してもよいかと思う。

事務局：埋蔵文化財の記載場所は事務局で一度検討する。

佐藤会長：p. 40に関連する制度として「100年フード」があるが、石部のいもつぶしが100年フードに認定された年度の記載が必要ではないか。

事務局：令和5年度に認定された旨を記載する。

佐藤会長：全体的に図が見つらい。特に図16は解像度が粗いため掲載している意味が全くない。また、図15も字が小さくて見つらい。図4の地形図は地形が分かりにくい。全体的に見やすい図にしてほしい。

事務局：図は全体的に解像度を上げるなどして見やすくする。

田中健一委員：p. 38の3行目に「917件の未指定文化財の所在を確認」とあるが、表7をみると所在不明を含めて計917件となっている。未指定文化財の中には過去の文献資料等から抽出しただけで所在確認が必要なものもあると思う。この所在確認は今後の課題になると思うため、所在不明の文化財の取扱いを検討してほしい。

事務局：現状あるかどうか分からない文化財はあるものとして数に計上している。課題として文化財の所在等の確認を挙げていきたいと思う。

八杉委員：「所在不明」の文化財はいつ時点で確認できているものか。

事務局：未指定文化財は文献資料と昨年度区長に行ったアンケート等から拾い上げたものであるため、いつの時点まで所在が確認できているものかは分からない。

八杉委員：未指定文化財リストと地域計画に掲載する件数内訳との整合は取れるようにしてほしい。

◇第3章

佐藤会長：第3章は、第2回協議会議事録にある「◆1 第1回協議会の結果を受けて」をもとに、歴史文化の特性①～④が作られている。これを踏まえて、歴史文化の特性①～④が妥当であるか、委員の皆様に検討いただきたい。

佐々木委員：石部宿という名称を歴史文化の特性のタイトルに入れてほしい。東海道にある宿場として重要視してほしい。

佐藤会長：前回の協議会でも「石部宿」や「夏見の立場跡」、「五十三次」をどのように取り扱うかが議論に挙がった。前回の協議会では、東海道は長い期間利用されてきた街道であるため、あまり時期を限定しない方がよいのではないかという議論になったが、他の委員のご意見はいかがか。

事務局：事務局としては時期等を限定するより、広く時期を捉えられるような特性にし、その中で宿場を捉えるようにしたい。

佐藤会長：歴史文化の特性の考え方は、『文化財保存活用地域計画ハンドブック』p. 48～56に記載されている。特性に具体的な遺跡名や地名を入れている事例もある一方で、具体的な遺跡名や地名を入れないで広く特性をとらえられるようにしている事例もある。今回、湖南省は、具体的な遺跡名や地名を入れないで広く特性をとらえられるようにしているが、もう少し具体的な文化財を取り上げた方がよいという意見もある。他の委員のご意見はいかがか。

事務局：今回の協議会資料に他の市町村の歴史文化の特性の記載例をまとめた資料を添付したので、併せて確認いただきたい。

佐藤会長：歴史文化の特性のメインタイトルを詳細なものにせず、サブタイトルで詳細を示す方法もあるのではないかと思う。サブタイトルは最終的につけてもよい。

事務局：歴史文化の特性のタイトルは重要で、市民が受け入れやすいものにしたいと考えている。

佐藤会長：地域計画では文化財を歴史文化の特性のストーリーに落とし込んで措置を講じていくことになる。歴史文化の特性の対象とする時期を限定するとそこに含まれない文化財がいくつか出てくる一方で、概要的な内容になると曖昧模糊なストーリーになってしまうおそれがある。サブタイトルを入れることは一つの解決方法だと思う。

青柳副会長：歴史文化の特性③と④は内容が被っていると思う。また、今後防災のことを地域計画に記載することになると思うが、防災文化は歴史文化の特性で触れないのか。湖南省はある程度防災対策を過去に行っている印象があるため、例えば野洲川の氾濫について過去にどのような対策をしてきたか等、防災文化として歴史文化の特性に入れてもよいのではないか。

事務局：湖南省では妙感寺流れという災害があった。妙感寺にその災害の慰霊碑がある。妙感寺流れが発生した日が湖南省の防災の日になっている。

青柳副会長：慰霊碑を建てることも防災になると思う。防災文化を歴史文化の特性のどれかに盛り込むか、もしくは別で新しく歴史文化の特性として挙げてよいのではないか。また、既往の文献資料等から防災に関する文化財が抽出できればよい。

佐藤会長：防災文化は、歴史文化の特性①のサブタイトルに入れてはどうか。自然との関わりには「共生」と「闘い」という両方の側面があるため、歴史文化の特性①のサブタイトルとして紐づけできればうまく収まるのではないかと。

八杉委員：野洲川の災害は水との闘いで、この川沿いの人々は絶えず水と闘ってきたと思う。地震であれば、人々の暮らしにもかかわってくると思う。第7章で防災について記載するため、防災文化を重要視して今後につなげてほしい。

佐藤会長：防災文化は第5章にも関係してくると思われる。人と自然の関わりとして歴史文化の特性①に防災文化を入れる必要があると思う。サブタイトルは事務局で考えていただき、次回の協議会で検討したい。メインタイトルとサブタイトルの方向性は、今回の協議会で議論しておきたい。

田中健一委員：歴史文化の特性①～④の記載順が気になる。歴史文化の特性①と④は湖南省の環境や地勢に関わるもので、その結果生まれてきた現象や文化が歴史文化の特性②と③になると思う。そのため、記載順を①、④、②、③としてはいかがか。現状、歴史文化の特性①と②はつながりがあるように記載をされているが、歴史文化の特性④を①の次に置くことで、歴史文化の特性の流れが分かりやすいのではないかと。

事務局：歴史文化の特性①で野洲川に触れ、歴史文化の特性④でも野洲川に触れているため、歴史文化の特性の流れとして分かりやすいならば、記載順を①、④、②、③にしたい。

藤支委員：歴史文化の特性①～④のタイトルは、湖南省らしいと思う。また、記載順も①、④、②、③でよいと思う。防災文化は斬新な視点だと思う。東日本大震災で過去の災害のことを伝える石碑のところまで逃げて命が助かったという話がある。そういった石碑が継承されなければ意味がない。今回の地域計画の策定にあたって防災に関係する文化財が見つければよい。また、歴史文化の特性のサブタイトルや特性の一つとして挙げられるならばよい。もしかしたら一般用のアンケート等に防災に関する項目があってもよいと思う。

佐藤会長：防災については、国土強靱化が国の政策にあげられ、文化財でも期待されている部分が大きくなっているため、その視点も入れてほしい。ひとまず歴史文化の特性のメインタイトルは現状のものでよいかと。また、記載内容の方向性もよいかと。

委員一同：異議なし。

佐藤会長：サブタイトルを付けるにあたり、協議会后にご意見があれば、事務局にお伝えいただきたい。次回の協議会でサブタイトルの審議をしたい。

滋賀県： p. 1の9行目に唐突に「湖南省らしさ」という言葉が出てくることに違和感が

ある。p. 3の10行目に「本市らしさを表す指定・未指定を含めた全ての文化財」とあるが、湖南省らしさを表す文化財を指定・未指定問わず収集するという事で未指定文化財を917件確認しているのだと思う。この湖南省らしさという言葉が今回の地域計画のキーワードとなると考えるのでどのようなものか説明を入れてほしい。

第3章の歴史文化の特性は湖南省らしさが色濃く表れたものであるが、一般用のアンケート等でいただくご意見により、さらに内容が濃くなっていくと思われる。

資料2-2の依頼文では湖南省らしさを表す指定・未指定の文化財を「市民のたから」と表現している。この言葉は、アンケート以外では使用しないのか。

序章のページ数は『文化財保存活用地域計画ハンドブック』に記載されている目次のページ数よりも多いのではないかと。p. 4~11以降の上位・関連計画の概要は資料編に移してはいかがかと。また全体的なレイアウトとして、ページの下方に余白が多いため、工夫してほしい。

p. 22の1行目にある「寒川辰清」の振り仮名は「さむかわたつきよ」ではなく「さむかわとききよ」に修正してほしい。またp. 43の7行目に「立場」があるが、振り仮名を付けた方が分かりやすい。

p. 19にある表4に宝暦以前の災害は掲載しないのか。宝暦以前の災害情報も掲載してほしい。

◆その他

事務局：今後アンケートとワークショップを行うため、次回の協議会は9月下旬から10月を目途に開催したいと考えている。協議会后にご意見等あればご連絡いただきたい。

青柳副会長：素案では「湖南省らしさ」という言葉が何度も使用されている。今回策定する地域計画が他市と比べてどのような特徴があるのか知りたい。例えば地域らしさということを含めて全面的に謳っている計画が少ないため、その点が特徴になるのか。

事務局：今回の地域計画は地域づくりや観光資源につなげたいと思っている。地域計画で指定等された文化財だけでなく、現在未指定となっている文化財も把握して、各まちづくり協議会で地域づくりに活用していきたいと思っている。

他の市町村と異なる点は、まちづくり協議会ごとに文化財の特徴を挙げていることだと思う。

青柳副会長：他市と違う計画を作成することも「湖南省らしさ」につながる可能性がある。そのことを意識するとよい計画ができると思う。